

(1)中央地区

① 地区特性

- 東京湾に面して低地が広がっています。地区南部に矢那川が流れています。
- 都市計画マスタープランでは、都市再生拠点に位置づけられ、本市の中心として、みなとをシンボルとしたまちづくりを進めるとともに、商業・業務、行政、医療・福祉、文化・芸術、居住など、高次な都市機能の集積とその連携を図り、市内外の多くの人が集い・賑わう拠点形成を目指しています。
- 市街化区域は人口密度が高く、商業・業務・公共交通・学校・病院など、多様な都市機能が集積しています。
- 土地区画整理事業による市街地整備が行われましたが、一部、住宅が密集している地域や道路が入り組んでいる地域が見られます。

② 災害リスク

ア. 推定被害規模と対応避難所等

| | 津波 浸水 | 高潮 浸水 | 河川 浸水 | ため池 浸水 | 土砂 災害 | 大規模 盛土 造成地 |
|---------|----------|----------|----------|-----------|----------|------------------|
| 想定災害 | ● | ● | ● | — | — | — |
| 推定被災人口 | 9,096 人 | 14,253 人 | 14,190 人 | — | — | — |
| 推定被災世帯※ | 4,311 世帯 | 6,755 世帯 | 6,725 世帯 | — | — | — |
| 対応避難所等 | 2 カ所 | 1 カ所 | 1 カ所 | — | 5 カ所 | 1 カ所 |
| 津波避難ビル | 6 カ所 | — | — | — | — | — |

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11人／世帯：令和4年4月時点）を除算して算出
※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

| 災害想定 | 災害リスク分析 | |
|------|---|---|
| 台風 | ●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。 | |
| 地震 | ●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。 | |
| 津波浸水 | ●本市の都市再生拠点であり、住宅や都市機能が集積している JR 木更津駅周辺を含み、広範囲に被害の恐れがある。 | ●水害に対応できる指定避難場所・指定緊急避難所の数が少なく、津波避難ビルの役割が重視される。 ●木更津駅周辺は3階建て以上の建物が多く浸水時に垂直避難が可能である。一方、木更津駅周辺以外は、2階建て以下の建物が多くなっており、垂直避難が困難である。 |
| 高潮浸水 | ●津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがあり、浸水深も深くなる。 | |
| 河川浸水 | ●矢那川・烏田川が氾濫した場合、津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがある。 ●矢那川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。 | |
| 内水氾濫 | ●浸水の危険性がある場所が指摘されている。 | |
| その他 | ●住宅が密集し、道路が狭い場所では、火災による延焼や災害時の道路閉塞、緊急車両が通れない等の恐れがある。 | |

③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

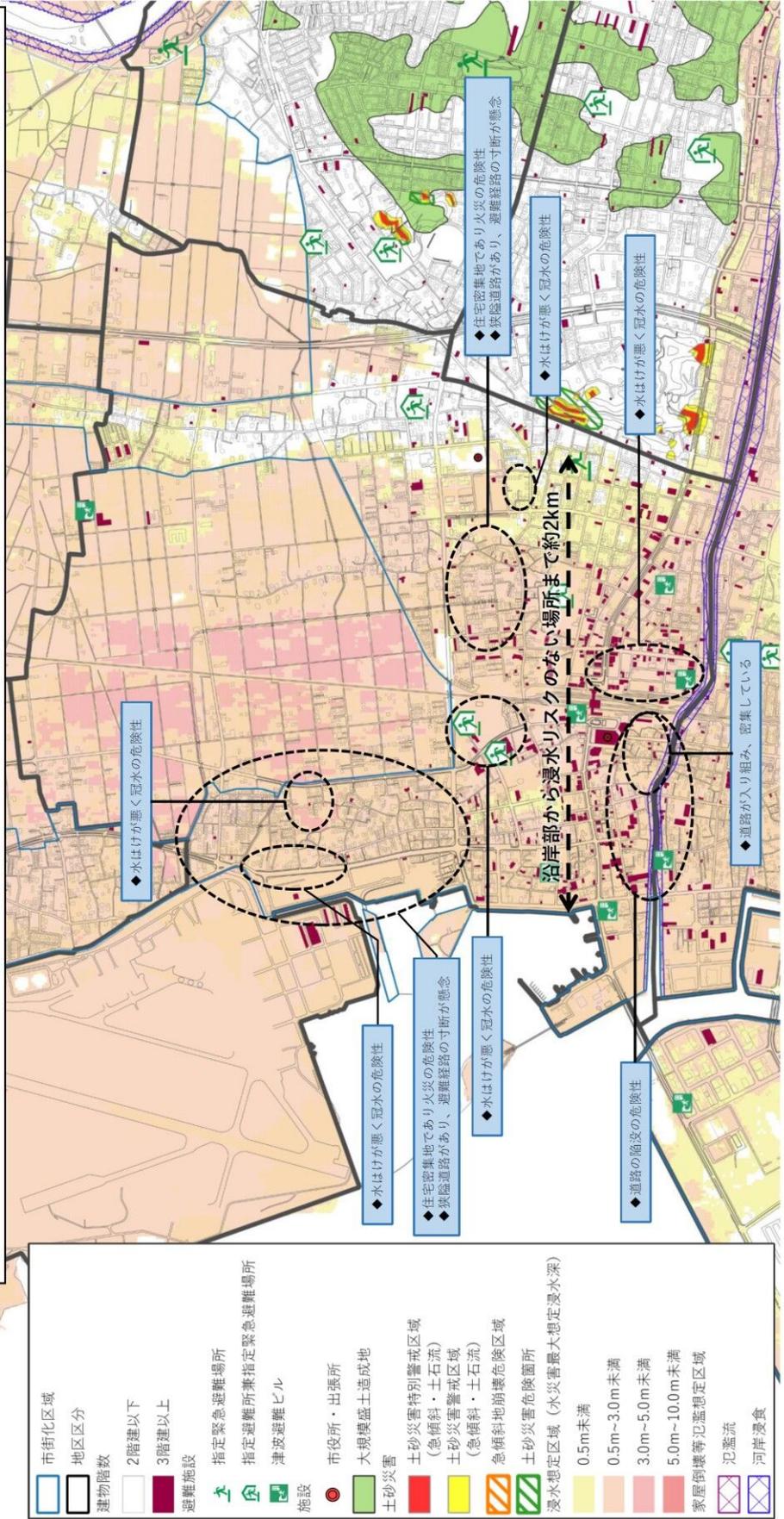
| 災害想定 | 課題 | |
|-----------------|---|---|
| 台風 | <p>事前対策の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ● 各自の身の回りの事前の備えの周知 | |
| 地震 | <p>建物の耐震性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性が確保された建物の普及 <p>建物内の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の安全を事前に確保 <p>敷地の液状化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 液状化対策の推進 | |
| 津波浸水 | <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 津波避難ビルの指定・協力推進 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浸水深を低減させるハード対策の実施 <p>床上浸水の防止・軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害対策が施された建物の普及 ● 建物用地の浸水対策 |
| 高潮浸水 | — | <p>停電対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害に強い電線の地中化の推進 <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ● 水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 |
| 河川浸水 | — | <p>災害時要配慮者の安全な避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立 |
| 内水氾濫 ・ 冠水 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実 | |
| 火災 | <p>延焼予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 火災の発生防止や早期発見、消火体制の確保等による延焼の防止 | |
| その他 | <p>情報取得手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の情報取得手段の確保 <p>停電対策の多重化・代替性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 <p>防災・減災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知 | |

【災害リスク分析図】

中央地区

＜地区の災害リスク＞

- 水災害**
- ◆ 水災害に弱い地形であり、ほぼ全域で0.5m以上の浸水の危険性がある。◆ 河岸浸食の危険性のある個所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
 - 避難**
 - ◆ 水災害に対応できる指定避難場所・指定緊急避難場所の数が少ない（津波：2カ所、高潮：1カ所、河川：1カ所）。
 - ◆ 木更津駅周辺は3階建て以上の建物が多く浸水時に垂直避難が可能である。一方、木更津駅周辺以外は、2階建て以下の建物が多くあっており、垂直避難が困難と想定される。
 - ◆ 高台がなく、水災害の際、沿岸部から浸水リスクのない安全な場所までの距離は約2kmとなっている。
 - ◆ JR線で東西に分断されているため、沿岸部から東方向への避難時に支障をきたす可能性がある。



は、住民意見交換会で住民から出された意見をもとに整理。
 ※洪水浸水想定区域・高潮浸水想定区域、津波浸水想定区域が重なっている区域については、最も浸水深が高い災害種別を表示。

| | | | |
|--|-------------------------|--|-------------------------|
| | 市街化区域 | | 指定緊急避難場所 |
| | 地区区分 | | 指定避難所兼指定緊急避難場所 |
| | 建物階数 | | 津波避難ビル |
| | 2階建以下 | | 市役所・出張所 |
| | 3階建以上 | | 大規模盛土造成地 |
| | 避難施設 | | 土砂災害 |
| | 指定緊急避難場所 | | 土砂災害特別警戒区域 (急傾斜・土石流) |
| | 指定避難所兼指定緊急避難場所 | | 土砂災害警戒区域 (急傾斜・土石流) |
| | 津波避難ビル | | 急傾斜地崩壊危険区域 |
| | 市役所・出張所 | | 土砂災害危険箇所 |
| | 大規模盛土造成地 | | 浸水想定区域 (水災害最大想定浸水深) |
| | 土砂災害 | | 0.5m未満 |
| | 土砂災害特別警戒区域 (急傾斜・土石流) | | 0.5m~3.0m未満 |
| | 土砂災害警戒区域 (急傾斜・土石流) | | 3.0m~5.0m未満 |
| | 急傾斜地崩壊危険区域 | | 5.0m~10.0m未満 |
| | 土砂災害危険箇所 | | 家屋倒壊等氾濫想定区域 |
| | 浸水想定区域 (水災害最大想定浸水深) | | 氾濫流 |
| | 0.5m未満 | | 河岸浸食 |
| | 0.5m~3.0m未満 | | |
| | 3.0m~5.0m未満 | | |
| | 5.0m~10.0m未満 | | |
| | 家屋倒壊等氾濫想定区域 | | |

[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

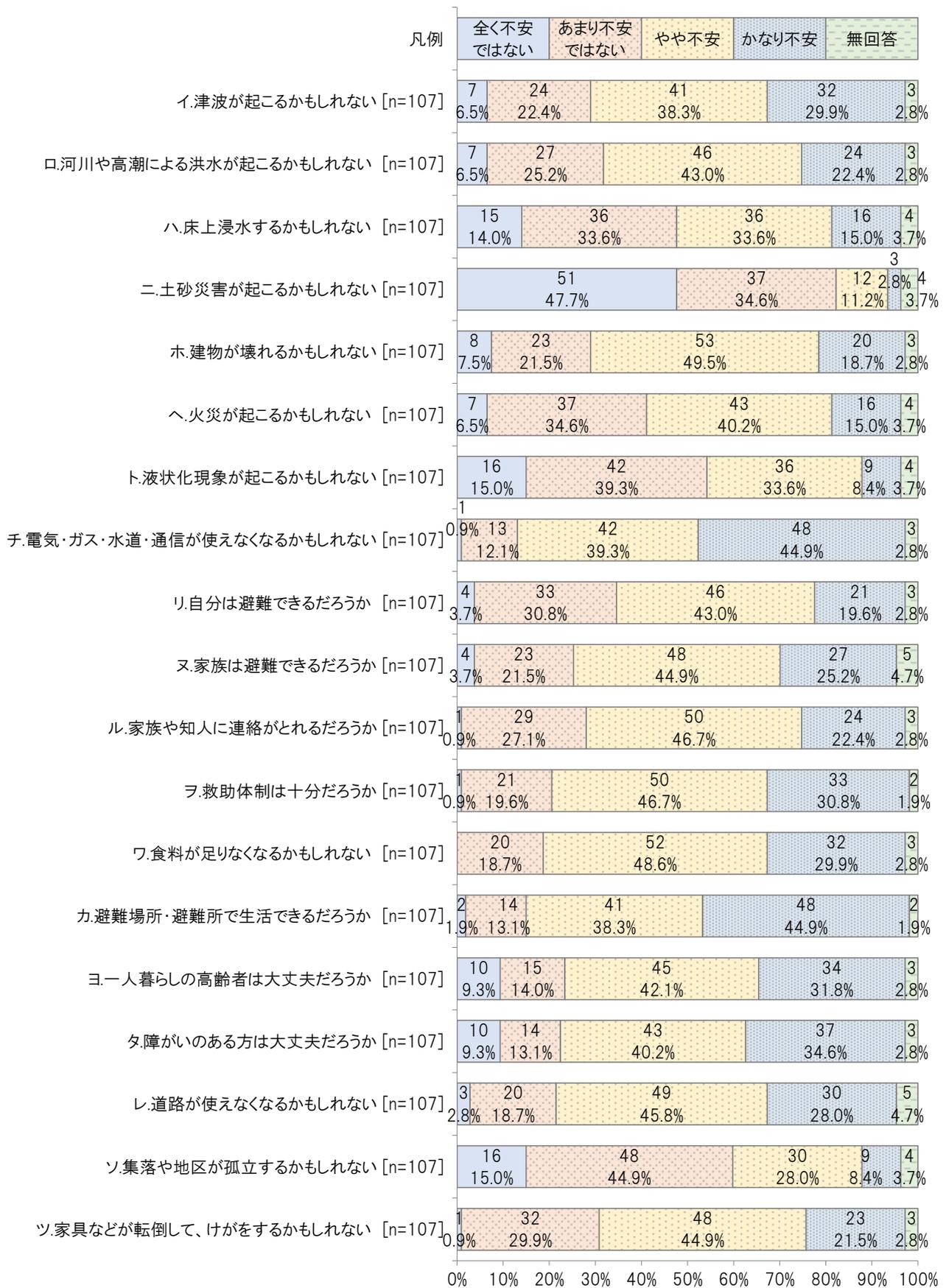
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。○は、読み取れなかった文字。

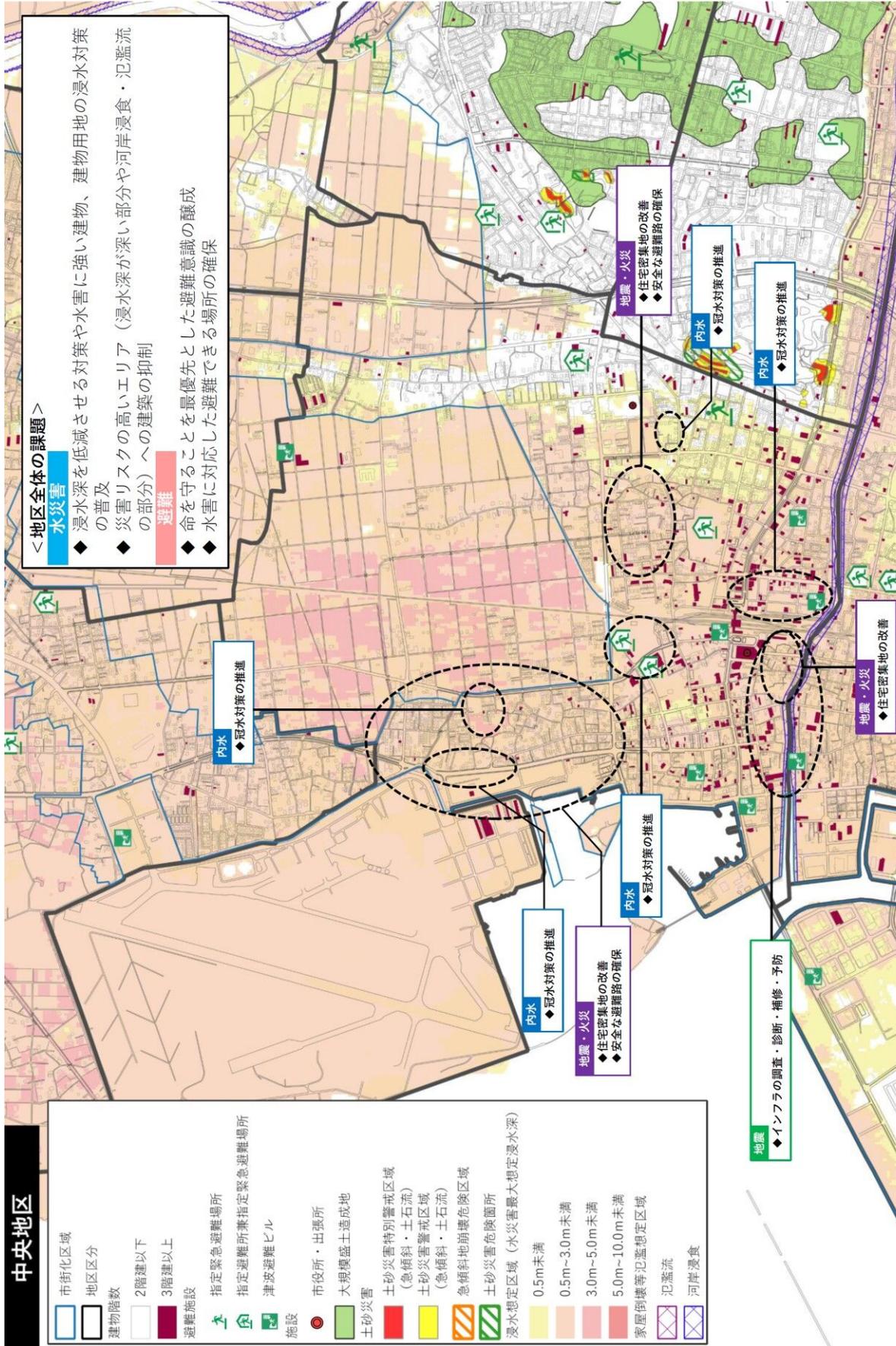
| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>老朽密集市街地での火災</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆旧住宅が並ぶ地域では、家と家の接○も少ない。大規模火災が発生すると多くの家屋が焼失する。 ◆木更津駅の東口に比べ、西口の方が建物が古く、元漁師町のせいで、道が細く火災の時、拡がる恐れあり。 ◆地盤が悪い場所に海抜2m以内の地域に古い住宅が密集しており、火災が起きたら、防火消火するのは間に合わない。市とかで防災のための補助金の必要があるのではないかと不安。 ◆火災の発生が不安。 ◆火災が不安。 ◆古い住宅が密集しており、延焼の不安。 ◆延焼の不安。 ◆火災報知器家庭用をもっとつける。 ◆火災報知器のメンテナンス。 ◆古い家が多い所では、住宅が密集しているのが防災の補助金。 ◆町内会の消火栓の確認。 ◆各町内会での水利の確認確保。 | <p>避難所での生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆避難場所でのトイレ、フライパシー、電力、食料、耐震。 ◆避難場所でのトイレ、電力、フライパシー、食料の確保。 ◆避難所のフライパシー。 ◆避難所が無い。 ◆避難所のトイレ。 <p>高齢者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢化による体力低下が不安。 ◆高齢化に対する対応準備が課題。 ◆高齢化の不安。 ◆高齢化対策。 ◆高齢化対策が課題。 ◆高齢化が不安。 | <p>避難の障害・避難所の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆風水害の避難場所は、木更津第一中学校であるが、途中の道が冠水し、避難所まで行けない。西側に、自衛隊や吾妻公園の広い敷地があるので、うまく利用できればよい。 ◆吾妻の一部の地区は水害が発生した場合、木更津第一中学校に避難するが、途中の道路(あじさい通り)が冠水すると、避難所にも行けないため、吾妻公園内に避難所機能を持った建物が出来ればよい。もしくは、自衛隊でも良いか。 ◆避難場所が多くない。屋上。 ◆中央地区は避難所がない。 ◆地震などがあると、被害を○○。避難場所を地域内だけでつづけるのはむずかしい。 ◆吾妻公園の中の交通公園を整備して、避難する建物を作った方がいいと思います。(1階：交通公園の施設、2階：会議室、コミュニティルーム。3階：避難所) | <p>情報の発信・入手</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全体的に市報の聞こえが悪い中、市民に連絡がとれる方法。 ◆市の放送が聞こえづらい。 ◆これだけの情報社会。子どもでもスマホを持っていて時代。自分から情報収集しなくてはならない。 |
| <p>大雨による道路の冠水</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆あじさい通りの東側は、大雨の度に冠水し、道路も使えないので住民が孤立してしまう。 ◆東口駅前が矢那川の増水による道の通行止めが起こる。 ◆あじさい通りの排水の整備。 ◆吾妻2丁目の排水の整備。 ◆今までで冠水する場所はわかっているから、対策をする。排水口の定期的な清掃。排水能力をあげる。 ◆排水の整備。 | <p>ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆停電の対応が不安。 ◆停電がこない対策が課題。 ◆停電が心配である。 ◆停電がおきないようにすること。 ◆無停電案が課題。 ◆トイレ・電気の確保。 ◆トイレの使用状態が不安。 ◆トイレ東の準備が課題。 ◆トイレができてくるのか不安。 ◆トイレレトララーが必要。 | <p>災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆個人での準備をどの程度できるかが課題 ◆個人での対策が重要。 | <p>住民の防災意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆台風(⇒進路予想)も高潮(⇒潮見表)もある程度予測出来る。来ないだろう大丈夫だろうではなく、準備を実行する。川の水位もネットで調べればわかる。 ◆子どもは大人を見る。防災意識もちつづける。いざという時うごく。 |
| <p>津波・高潮の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆津波の高さ？が不安。 ◆津波を不安視している。 ◆津波が不安。 ◆高潮の危険の地域。 ◆台風は風、雨、高潮の被害。 | <p>台風・強風による被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆あじさい通りは、田んぼが多いため、風の通り道になり、かわら屋根の被害がある可能性がある。 ◆台風による重複した小川の危険が高い。 | <p>その他の</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆あふれたら物が流れる。絶対ごみが多く大量にでる。日頃から片づけ。火事だともえる。ごみ処理場バンクする。 ◆荒れた田んぼの草を定期的に刈る、燃やす。 ◆古い低層住宅が多い。人口多い。 ◆地盤が悪い。 | <p>洪水の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大雨(豪雨)の回数が多くなっている。洪水が身近になっている。 ◆護岸の修復。 ◆護岸工事。川底をもっと低くしたりする工事を積極的にし、水路の近くに防災の避難場所を(公園)を確保して欲しい。 ◆護岸工事の実施。 ◆矢那川の清掃。 |

中央地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



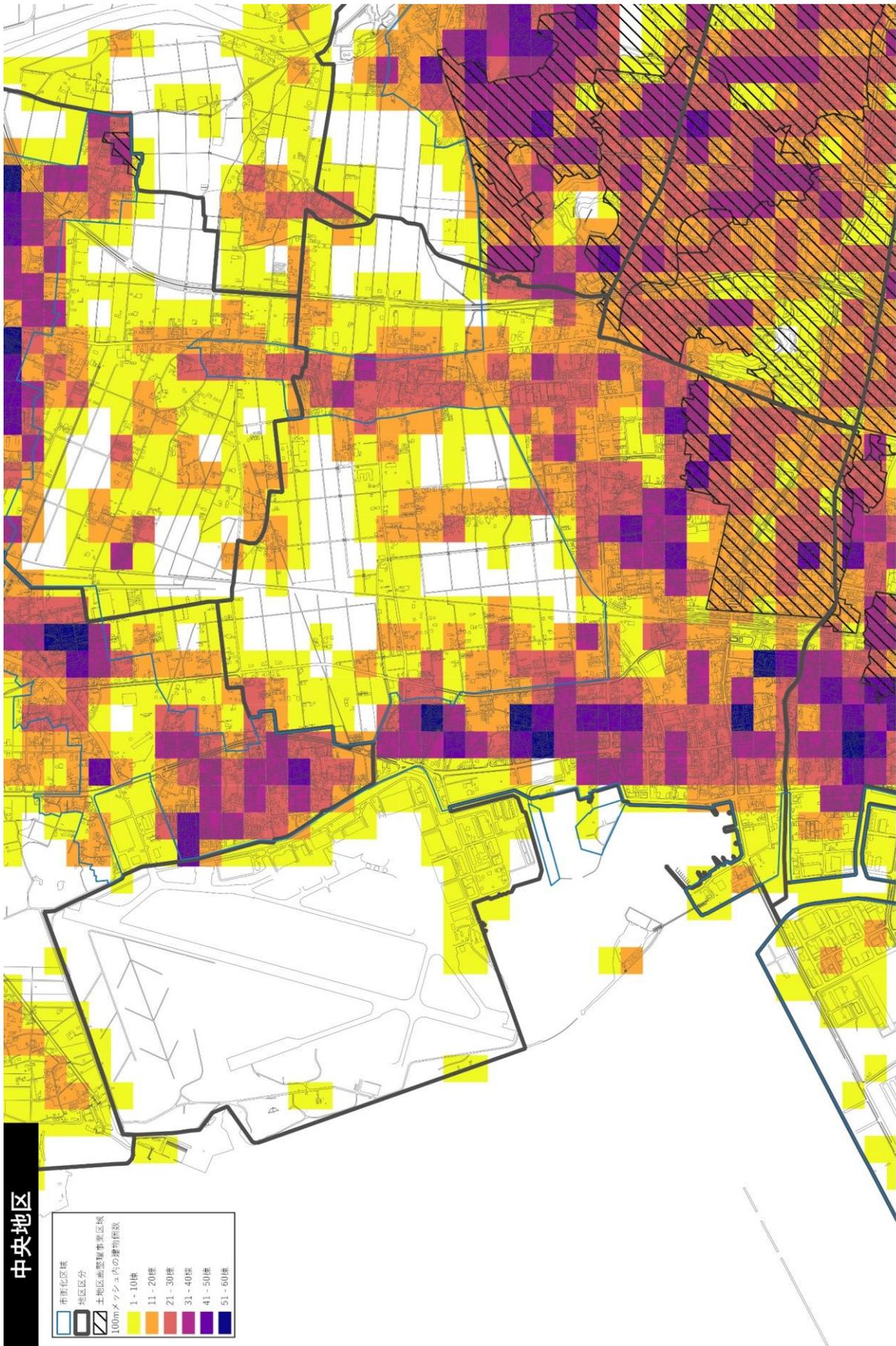
[課題図]



※吹き出しで整理している課題は、住民意見交換会の意見に対する課題として指摘しているが、指摘箇所以外にも発生しうる課題として捉える。
 ※洪水浸水想定区域・高潮浸水想定区域・津波浸水想定区域が重なっている区域については、最も浸水深が高い災害種別を表示。

中央地区

[参考：建物密度分布図]



(2)金田地区

① 地区特性

- 東京湾と小櫃川に面して低地が広がっています。
- 都市計画マスタープランでは、交流拠点に位置づけられ、千葉県の玄関口として、商業・業務機能等の集積を図り、東京湾岸における交流で賑わう拠点形成を目指しています。また、新たな人口の受け皿として、都市の利便性と、干潟や田園等周辺の自然環境と調和した良質な住環境の形成を図ります。
- 市街化区域では、土地区画整理事業により、新しい市街地が作られています。商業・業務など、多様な都市機能が集積しており、今後、人口集積が見込まれる地域です。
- 市街化調整区域では、海岸や小櫃川に近い場所に集落が形成されています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

| | 津波 浸水 | 高潮 浸水 | 河川 浸水 | ため池 浸水 | 土砂 災害 | 大規模 盛土 造成地 |
|---------|----------|----------|----------|-----------|----------|------------------|
| 想定災害 | ● | ● | ● | — | — | — |
| 推定被災人口 | 4,382 人 | 4,767 人 | 4,720 人 | — | — | — |
| 推定被災世帯※ | 2,077 世帯 | 2,259 世帯 | 2,237 世帯 | — | — | — |
| 対応避難所等 | 1 カ所 | — | — | — | 3 カ所 | — |
| 津波避難ビル | 2 カ所 | — | — | — | — | — |

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11人/世帯：令和4年4月時点）を除外して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

| 災害想定 | 災害リスク | |
|------|---|---|
| 台風 | ●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。 | |
| 地震 | ●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。 | |
| 津波浸水 | ●地区全域で浸水の恐れがある。 ●商業・業務・住宅の集積を図る交流拠点を有し、今後、人口集積が進む拠点であり、浸水被害が大きくなる可能性がある。 | ●水害に対応できる指定避難場所・指定緊急避難所の数が少なく、避難できない可能性がある。 ●3階建て以上の建物が少なく、垂直避難が困難である。 |
| 高潮浸水 | ●津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがあり、浸水深も深くなる。 | |
| 河川浸水 | ●小櫃川・浮戸川が氾濫した場合、津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがある。 ●小櫃川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。 | |
| 内水氾濫 | ●浸水の危険性がある場所が指摘されている。 | |
| その他 | ●住宅が密集し、道路が狭い場所では、火災による延焼や災害時の道路閉塞、緊急車両が通れない等の恐れがある。 | |

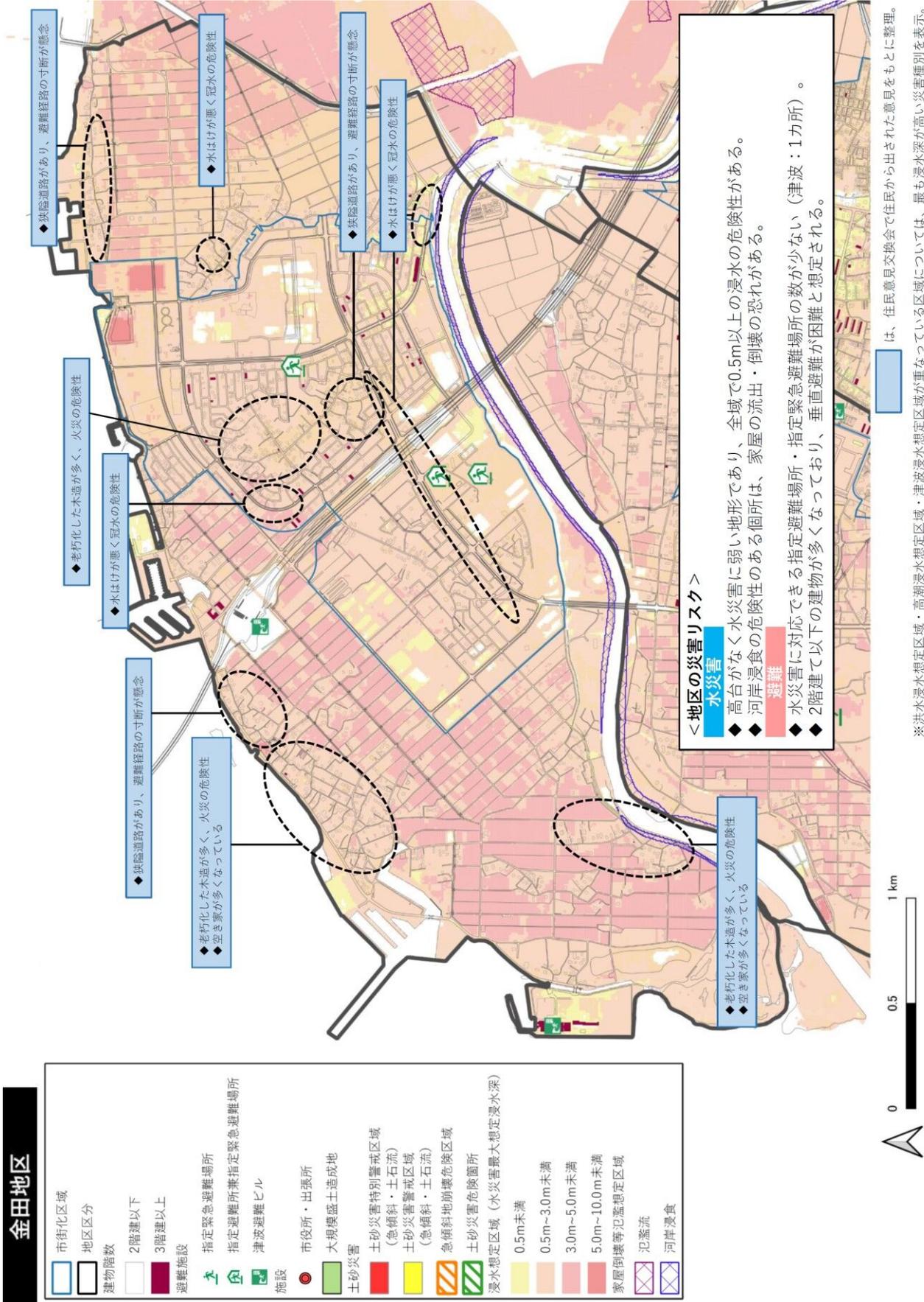
③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

| 災害想定 | 課題 | |
|-----------------|---|---|
| 台風 | <p>事前対策の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ● 各自の身の回りの事前の備えの周知 | |
| 地震 | <p>建物の耐震性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性が確保された建物の普及 <p>建物内の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の安全を事前に確保 <p>敷地の液状化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物敷地の液状化対策の推進 | |
| 津波浸水 | <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来立地する建物に対する、津波避難ビルの指定・協力推進 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浸水深を低減させるハード対策の実施 <p>床上浸水の防止・軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害対策が施された建物の普及 ● 建物用地の浸水対策 |
| 高潮浸水 | — | <p>停電対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害に強い電線の地中化の推進 <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ● 水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 |
| 河川浸水 | — | <p>災害時要配慮者の安全な避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立 |
| 内水氾濫 ・ 冠水 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実 | |
| 火災 | <p>延焼予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 火災の発生防止や早期発見、消火体制の確保等による延焼の防止 | |
| その他 | <p>情報取得手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の情報取得手段の確保 <p>停電対策の多重化・代替性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 <p>市外来訪者の避難方法等の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設等の来訪者に対する避難方法の周知と場所の確保 <p>防災・減災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知 | |

金田地区

[災害リスク分析図]



[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

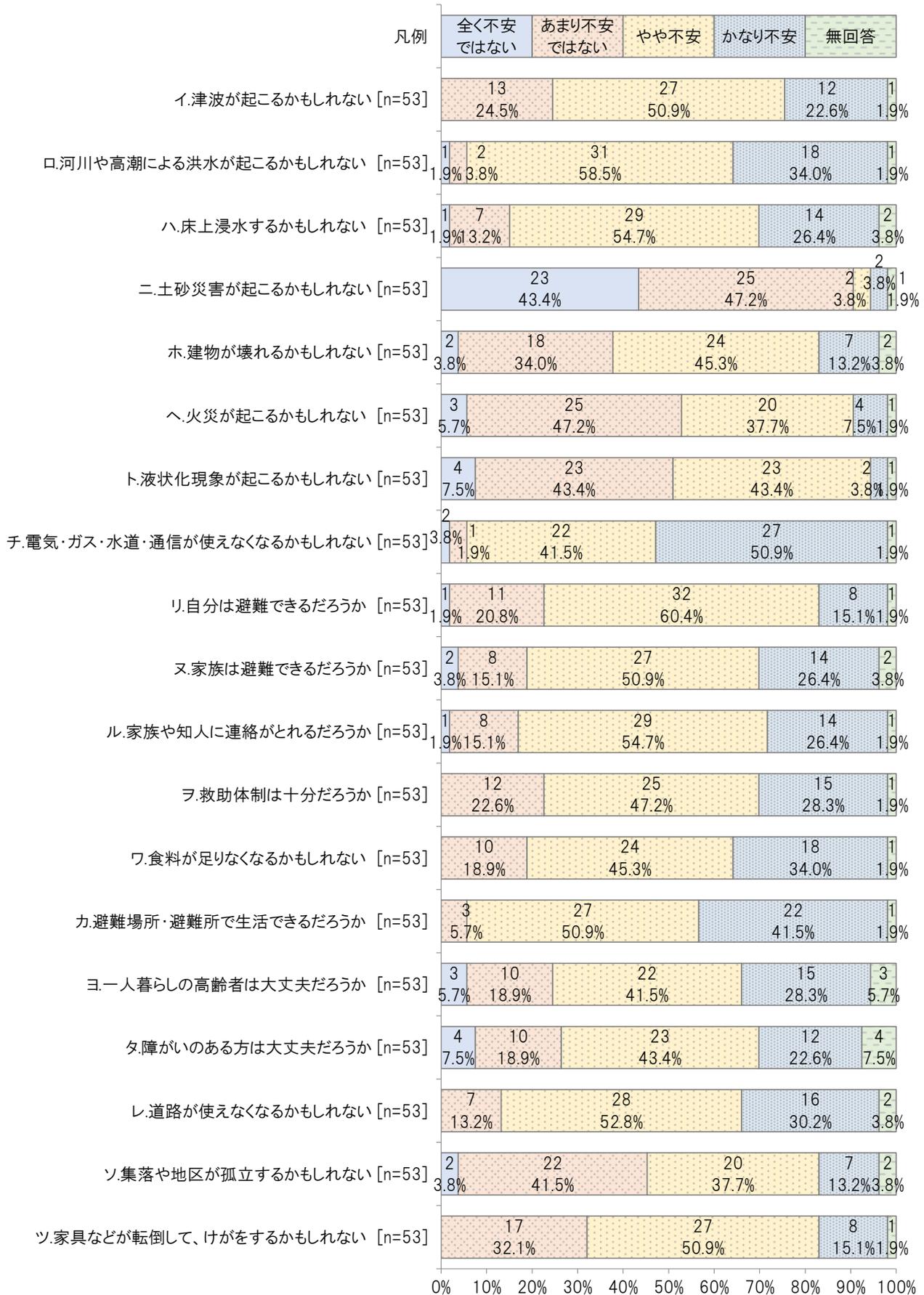
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

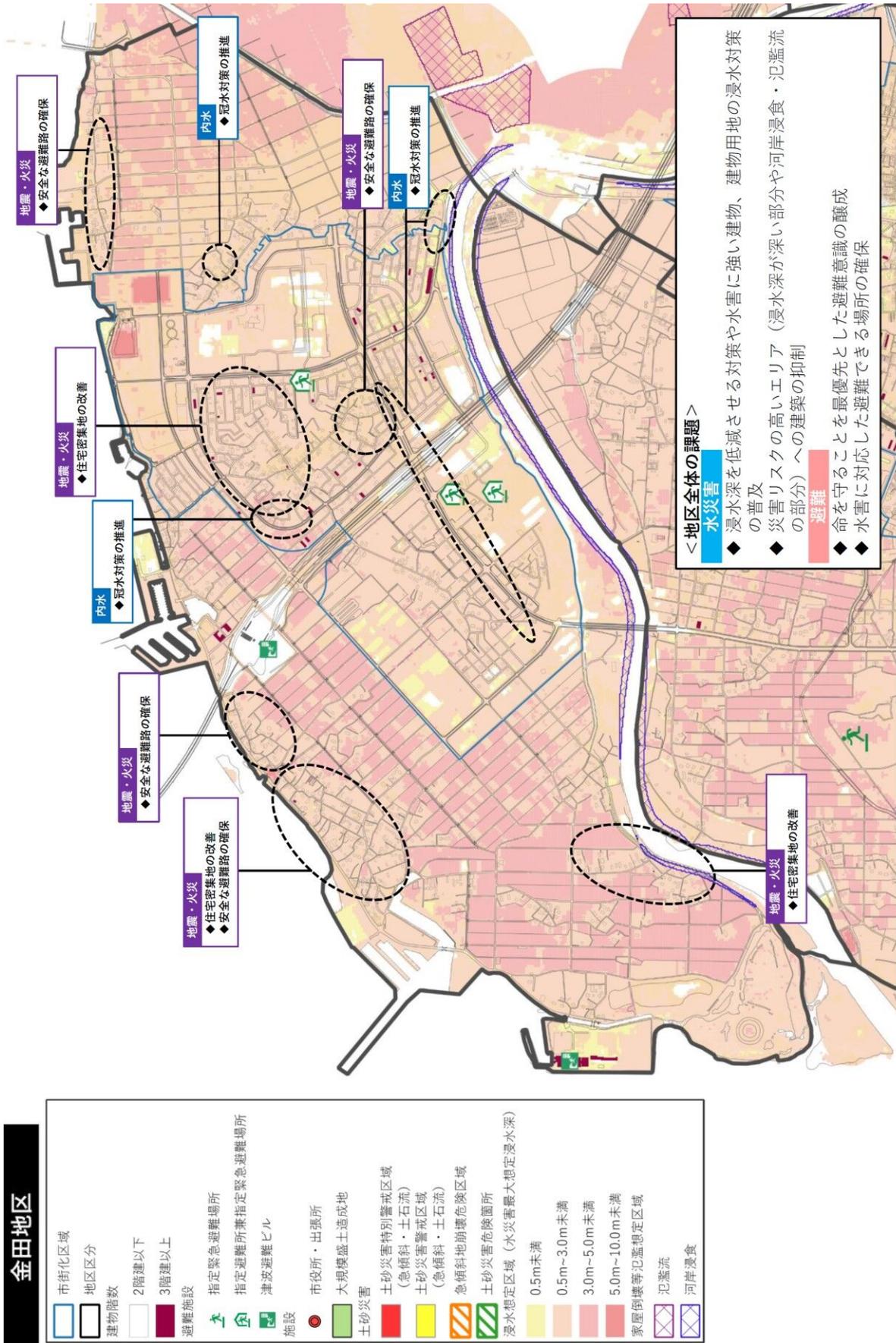
| | | | |
|---|---|---|--|
| <p>避難の障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 道路の渋滞 ◆ 道路が冠水してしまうことで、避難所まですばやく移動できなくなってしまうこと。 ◆ 道路が冠水してしまっ避難場所に行きづらくなる。 ◆ 金田地区は四方を水に囲まれている為、避難が難しくなることへの不安。 ◆ 周辺道路の混雑。 ◆ 道路冠水による移動の制限、孤立。 ◆ 集落の密集により、木々も多い為、倒れて電線。その為、電線にかかっている木々の伐採 ◆ 水害によって避難経路 出来ない。 | <p>避難の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ いざ災害の時、動ける人がいるかどうか(出稼ぎ、地元離れ)。 ◆ 高齢者しかいない家、施設の避難。 ◆ 避難所までたどりつけるか？(独居、年寄り、意識低い人等) 助け合い、意識の向上。 ◆ 共助(震災時の手助け?)。 ◆ 基本的に老人世帯が多い為、避難所にいくことが難しい。 ◆ 老人世帯の区(地区防災として)の役割。 | <p>財産等の喪失</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自宅損失。 ◆ 小櫃川の氾濫。高潮による洪水で、家や車が浸水、破損してしまうこと。 ◆ 高潮の時、大雨台風などで船が漁港に乗り上げてしまう！ ◆ 金田地区は四方を水に囲まれている為、大雨による家屋の浸水被害への不安。 ◆ 高機による家屋の浸水。 | <p>避難場所・広さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 土日祝日：金田地区以外への避難場所(風水害の場合、袖ヶ浦なのが、岩根なのか)。 ◆ 人口が増加しているので避難所のキャパシティ。 ◆ 避難者を避難所に全員収容できる？ ◆ 避難場所が少ない(早めに避難させる)。 |
| <p>来訪者の避難場所の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 土日祝日：観光客の避難先(大規模商業施設の従業員も含む)。 ◆ 水害が主となる⇒車が使えない(◎移動方法に限られる)⇒大型商業施設のお客さん、その他への対策。 ◆ 金田地区の住民以外のコントロール(想定の確認)。 | <p>災害そのものによる被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高潮による洪水を心配している！ ◆ 小櫃川の氾濫。 ◆ 火災時、空家への対応。 ◆ 地域史の特性 水害。 | <p>ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 電機・水道・通信の不通ができないことを心配！ ◆ インフラ停止による生活難。 | <p>備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 備蓄(災害への備え)(各家庭での備え・地域での備え)。 ◆ 自助(普段時の備え)。 |
| <p>避難場所での生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 避難場所(学校等)で共同生活が出来るか？ ◆ 食料、飲料水の配給に時間がかかる。 | <p>避難経路</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ インフラの整理、整備。 ◆ 逃げる事を考える。 ◆ 緊急時はアクアライン。 ◆ 逃げ道。 ◆ 金木橋へのインフラ確保。 ◆ アクアラインへのインフラ確保 袖ヶ浦方面。 | <p>災害情報の伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 津波到達予測時間の伝達 避難場所の選択方向 指定。 ◆ 河川氾濫警戒情報伝達のタイミミング 時間的裕度。 ◆ 公助(日頃からの危険ヶ所の点検、補修)。 ◆ 新住宅避難方法？(自治会入会していないため)。 | <p>備え</p> |

金田地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



【課題図】

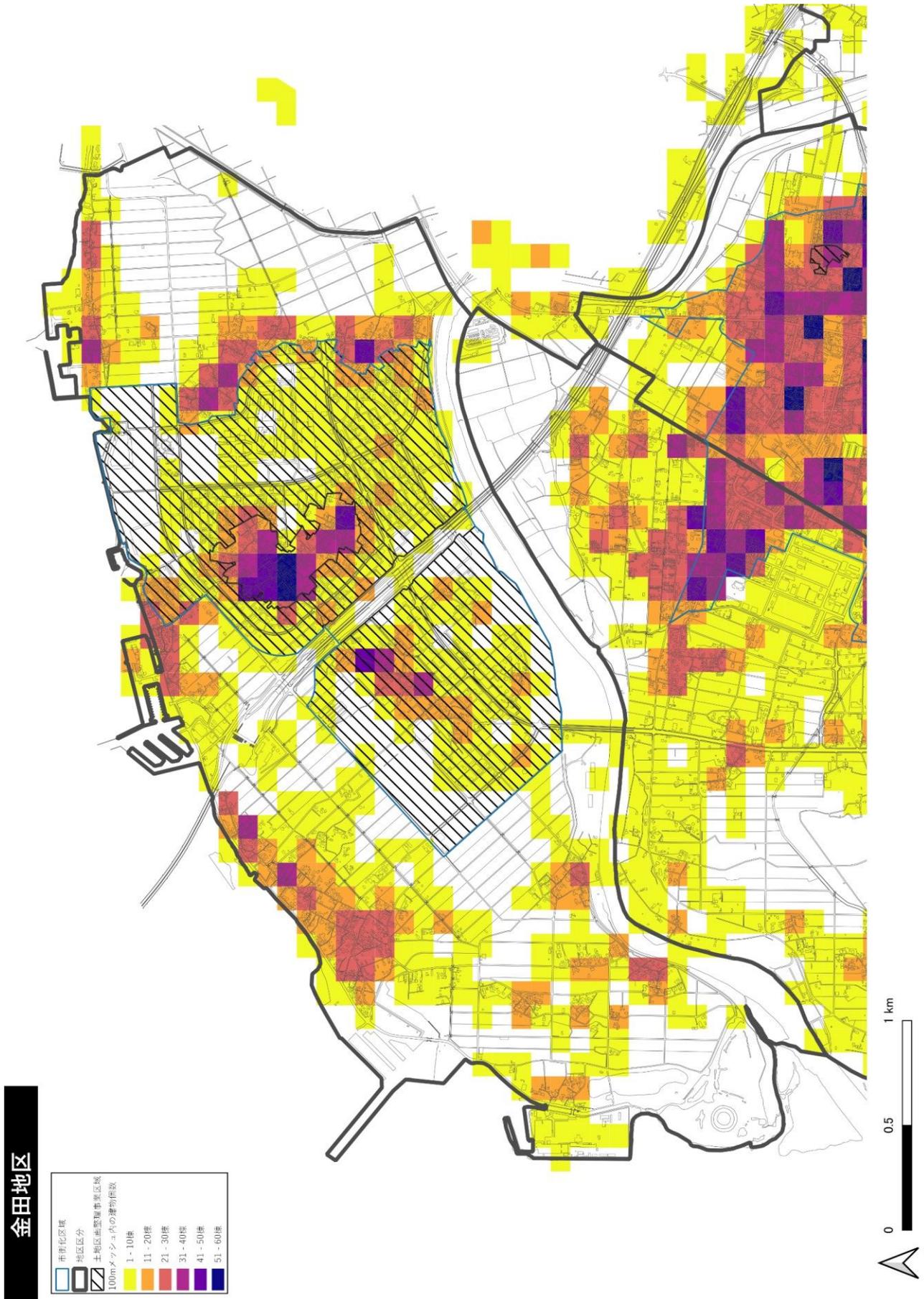


0 0.5 1 km

※吹き出しで整理している課題は、住民意見交換会の意見に対する課題として指摘しているが、指箇所以外にも発生しうる課題として捉える。
 ※洪水浸水想定区域・高潮浸水想定区域・津波浸水想定区域が重なっている区域については、最も浸水深が高い災害種別を表示。

金田地区

[参考：建物密度分布図]



(3)岩根西地区

① 地区特性

- 東京湾と小櫃川に面して低地が広がっています。
- 都市計画マスタープランでは、JR 巖根駅周辺において、地域中心拠点に位置づけられ、都市再生拠点を補完する身近な生活サービスなどの機能を集積し、日常生活の拠り所となる拠点形成を目指しています。
- JR 巖根駅西側には、病院や福祉施設、子育て支援施設が立地しています。
- 地区全体で、低層建物が広く分布しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

| | 津波 浸水 | 高潮 浸水 | 河川 浸水 | ため池 浸水 | 土砂 災害 | 大規模 盛土 造成地 |
|---------|----------|----------|----------|-----------|----------|------------------|
| 想定災害 | ● | ● | ● | — | — | — |
| 推定被災人口 | 4,855 人 | 8,318 人 | 8,318 人 | — | — | — |
| 推定被災世帯※ | 2,301 世帯 | 3,942 世帯 | 3,942 世帯 | — | — | — |
| 対応避難所等 | 2 カ所 | — | — | — | 4 カ所 | 1 カ所 |
| 津波避難ビル | 2 カ所 | — | — | — | — | — |

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11人／世帯：令和4年4月時点）を除外して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

| 災害想定 | 災害リスク | |
|------|---|---|
| 台風 | ●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。 | |
| 地震 | ●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。 | |
| 津波浸水 | ●海岸から2km強圏内で浸水の恐れがある。 | ●水害に対応できる指定避難場所・指定緊急避難所の数が少なく、避難できない可能性がある。 ●3階建て以上の建物が少なく、垂直避難が困難である。 |
| 高潮浸水 | ●津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがあり、浸水深も深くなる。 | |
| 河川浸水 | ●小櫃川が氾濫した場合、津波浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがある。 ●小櫃川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。 | |
| 内水氾濫 | ●浸水の危険性がある場所が指摘されている。 | |
| その他 | ●住宅が密集し、道路が狭い場所では、火災による延焼や災害時の道路閉塞、緊急車両が通れない等の恐れがある。 | |

③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

| 災害想定 | 課題 | |
|-----------------|--|--|
| 台風 | <p>事前対策の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ●各自の身の回りの事前の備えの周知 | |
| 地震 | <p>建物の耐震性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性が確保された建物の普及 <p>建物内の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●建物内の安全を事前に確保 <p>敷地の液状化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●液状化対策の推進 | |
| 津波浸水 | <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●将来立地する建物に対する、津波避難ビルの指定・協力推進 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●浸水深を低減させるハード対策の実施 <p>床上浸水の防止・軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水災害対策が施された建物の普及 ●建物用地の浸水対策 |
| 高潮浸水 | — | <p>停電対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水災害に強い電線の地中化の推進 <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ●水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 |
| 河川浸水 | — | <p>災害時要配慮者の安全な避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立 |
| 内水氾濫 ・ 冠水 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実 | |
| 火災 | <p>延焼予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災の発生防止や早期発見、消火体制の確保等による延焼の防止 | |
| その他 | <p>情報取得手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時の情報取得手段の確保 <p>停電対策の多重化・代替性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 <p>防災・減災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知 | |

[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

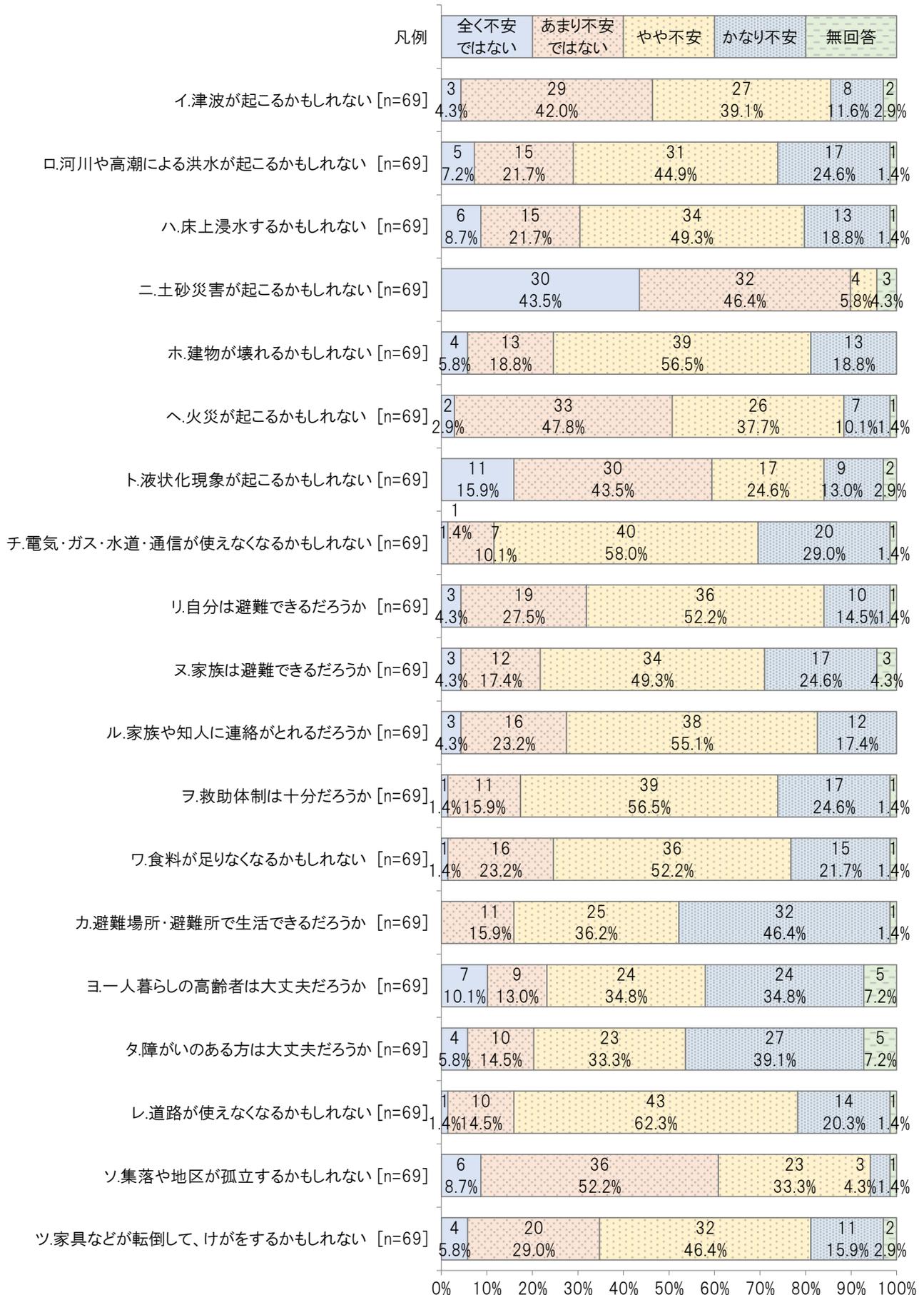
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。○は、読み取れなかった文字。

| | |
|---|--|
| <p>避難場所の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 岩根西地区に洪水を対象にした避難場所がない。(希望) 地区内の岩根西公民館、岩根小、岩根西中、海上自衛隊乙1倉庫を洪水に対する避難場所にしてほしい。 ◆ 西地区では、洪水の際、避難所が開設されていないが、岩小や乙1倉庫(海上自衛隊)など西中含む高い所があるため、開設してほしい。 ◆ 一時避難所と生活避難所の区別も明確にする必要があり。地域の認識度高めるため。 ◆ 風水害による避難所を設けていただきたい。この地区には岩小、岩西中は指定からはずれている。 ◆ 校舎について、再度指定緊急避難所にできないか、検討願いたい。 ◆ 特に浸水被害が怖く、津波に対する避難場所が見当たらない。小川の土手をもっと高くしてほしい。 ◆ 久津間地区は、避難場所までの距離がすぎ。海上、航空自衛隊避難場に。 ◆ 避難場所の数。多くの人が避難した時に対応できるのか？備蓄されている食料、資材等の数、実際に見て思いました。 ◆ 大雨、洪水、高潮時、すみやかに避難できる場所がない。 ◆ 逃げ遅れた場合の緊急避難として、岩根西中、岩根小学校の2階以上を開設してほしい。 ◆ 水害についての避難所は高台地区へ移動となるが、受入れ側の避難所と連携を取ってほしい。 ◆ 津波、高潮時の避難場所が岩根西地区には無いということ。 ◆ 水に関する避難する場所がわからない。 ◆ 避難箇所が少ない。キャパがたえきれない。 ◆ 岩根西地区も含め、近隣(岩根)にも水に関する避難所が無いので、どこに逃げればいいのか分からない。 ◆ 水災時の防災・減災(冠水・浸水)避難場所の確保(地区の近くに確保)、避難道路の確保、水路の整備、増強)。 ◆ 日常から自分で避難場所を考える事。 | <p>避難・支援の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高齢者が多いので、弱者の支援をどうするか。 ◆ 災害弱者に対する支援は、現在どこまで確保されているのか、個別支援計画の取り組み状況は？ ◆ 障害者、高齢者、独居者に対する○助がわからない。 ◆ 弱者に対するフォロワー(情報提供・避難経路等、水災害地震)。 ◆ 災害弱者をどう助ければいいのか？ ◆ 災害弱者への対応(特に水災に関する事項)。 ◆ 共助に依存する避難行動(災害弱者)要支援者取り纏め後のフォロワーが不十分であり、十分な行動につながらないと懸念される(市、地区)。 ◆ 地区内に避難所がない場合の避難訓練の在り方を示してほしい。 |
| <p>浸水の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 久津間地区は、二級河川小櫃川下流にあり、2019年台風のとき大雨で亀山ダムが満水で放流寸前でしたが、小雨になった為に放流はしませんでした。又、今年の7月の大雨でも久津間地区の船溜まりより水が流れ込み、土のう袋を積み水が流れ込むのを防ぐ作業をしている所です。低地があるため、今より少しでも安心安全な地域となる様をお願いします。 ◆ 小櫃川や海岸の堤防高を再検証し、必要であれば、対応を・・・。 ◆ 用水路の整備をしていただきたい。水路が砂で浅くなってしまっている区でも対策しているが、間にあわない。 ◆ 水災時の防災・減災(冠水・浸水)避難場所の確保(地区の近くに確保)、避難道路の確保、水路の整備、増強)。 | <p>避難経路の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 避難する場合、経路の災害ポテンシャルの把握が不十分(液状化、浸水対応)。 ◆ 避難経路がわからない。 ◆ 環境整備、夜間の対策。 ◆ 重要道がほとんど冠水するので、避難経路の選定が難しい。 ◆ 夜間だと行動がとれない。 |
| <p>情報の入手・伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 災害情報入手・伝達方法(各戸に継がる手段確保)。 ◆ 避難場所をわかりやすくしてもらいたい。 | <p>災害そのものによる被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 台風や大雨時の建物の浸水や台風時の建物(屋根)の崩壊危険。 ◆ 浸水箇所多し。主に道路。 |

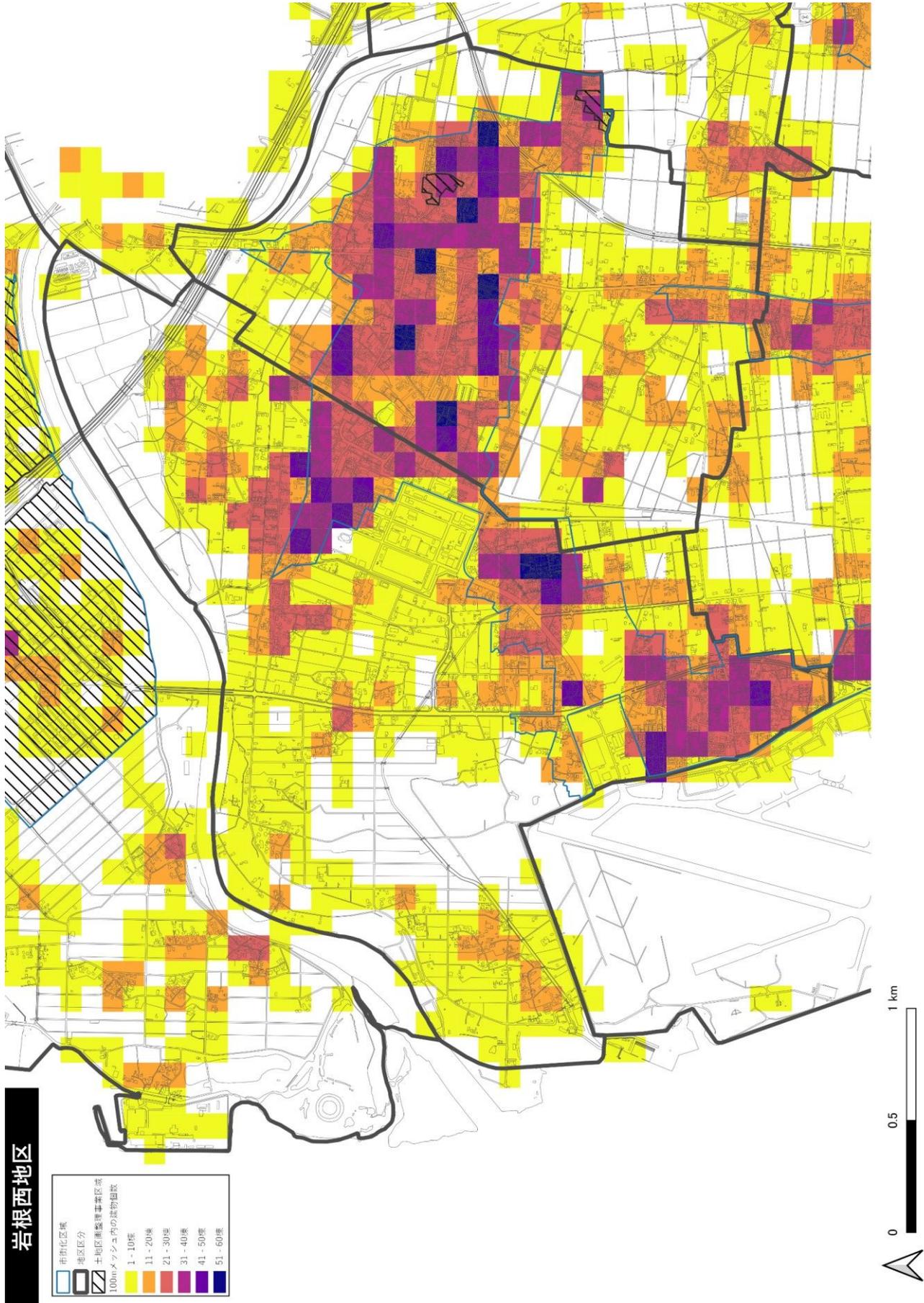
岩根西地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



岩根西地区

[参考：建物密度分布図]



(4)岩根地区

① 地区特性

- 小櫃川に面して低地が広がっています。
- 都市計画マスタープランでは、JR 巖根駅周辺において、地域中心拠点に位置づけられ、都市再生拠点を補完する身近な生活サービスなどの機能を集積し、日常生活の拠り所となる拠点形成を目指しています。
- JR 巖根駅東側の市街化区域は住宅地となっており、スーパーマーケットや病院、学校、子育て支援施設等が立地しています。
- 一部、中高層の集合住宅が立地していますが、地区全体で、低層建物が広く分布しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

| | 津波 浸水 | 高潮 浸水 | 河川 浸水 | ため池 浸水 | 土砂 災害 | 大規模 盛土 造成地 |
|---------|----------|----------|----------|-----------|----------|------------------|
| 想定災害 | ● | ● | ● | — | — | — |
| 推定被災人口 | 17 人 | 9,543 人 | 9,604 人 | — | — | — |
| 推定被災世帯※ | 8 世帯 | 4,523 世帯 | 4,552 世帯 | — | — | — |
| 対応避難所等 | 3 カ所 | — | — | — | 3 カ所 | — |

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11 人／世帯：令和 4 年 4 月時点）を除算して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

| 災害想定 | 災害リスク | |
|------|---|---|
| 台風 | ●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。 | |
| 地震 | ●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。 | |
| 津波浸水 | ●地区西部の一部で浸水する恐れがある。 | ●水害に対応できる指定避難場所・指定緊急避難所の数が少なく、避難できない可能性がある。 ●3階建て以上の建物が少なく、垂直避難が困難である。 |
| 高潮浸水 | ●広範囲に被害の恐れがある。 | |
| 河川浸水 | ●小櫃川が氾濫した場合、高潮浸水想定区域よりも広範囲に被害の恐れがある。 ●小櫃川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。 | |
| 内水氾濫 | ●浸水の危険性がある場所が指摘されている。 | |
| その他 | ●住宅が密集し、道路が狭い場所では、火災による延焼や災害時の道路閉塞、緊急車両が通れない等の恐れがある。 | |

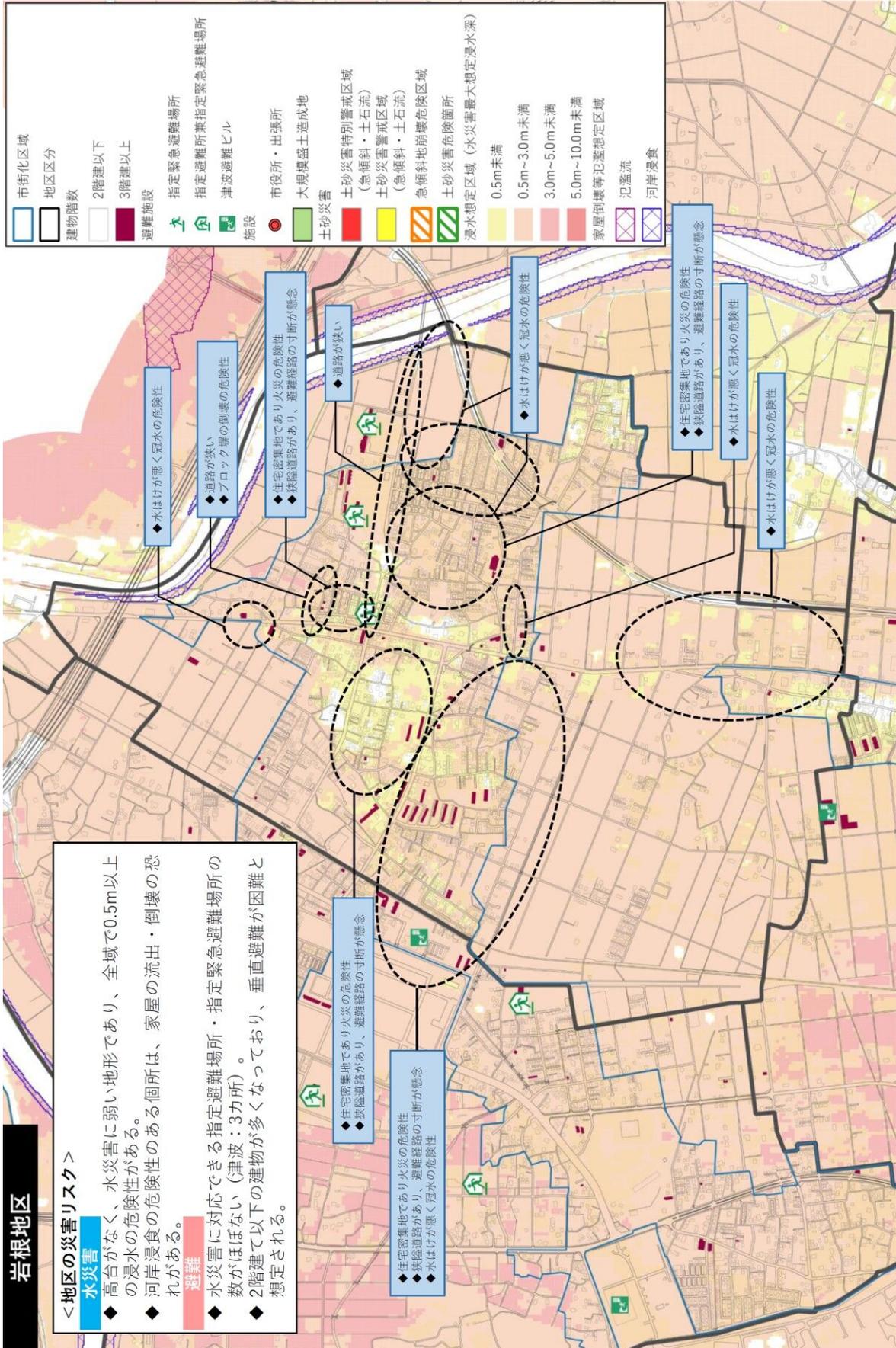
③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

| 災害想定 | 課題 |
|-----------------|---|
| 台風 | <p>事前対策の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ● 各自の身の回りの事前の備えの周知 |
| 地震 | <p>建物の耐震性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性が確保された建物の普及 <p>建物内の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の安全を事前に確保 <p>敷地の液状化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 液状化対策の推進 |
| 津波浸水 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浸水深を低減させるハード対策の実施 <p>床上浸水の防止・軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害対策が施された建物の普及 ● 建物用地の浸水対策 |
| 高潮浸水 | <p>停電対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水災害に強い電線の地中化の推進 <p>避難できる場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ● 水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 |
| 河川浸水 | <p>災害時要配慮者の安全な避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立 |
| 内水氾濫 ・ 冠水 | <p>浸水深の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実 |
| 火災 | <p>延焼予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 火災の発生防止や早期発見、消火体制の確保 |
| その他 | <p>情報取得手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の情報取得手段の確保 <p>停電対策の多重化・代替性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 <p>防災・減災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知 |

岩根地区

[災害リスク分析図]



は、住民意見交換会で住民から出された意見をもとに整理。
 ※洪水浸水想定区域・高潮浸水想定区域が重なっている区域については、最も浸水深が高い災害種別を表示。

[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

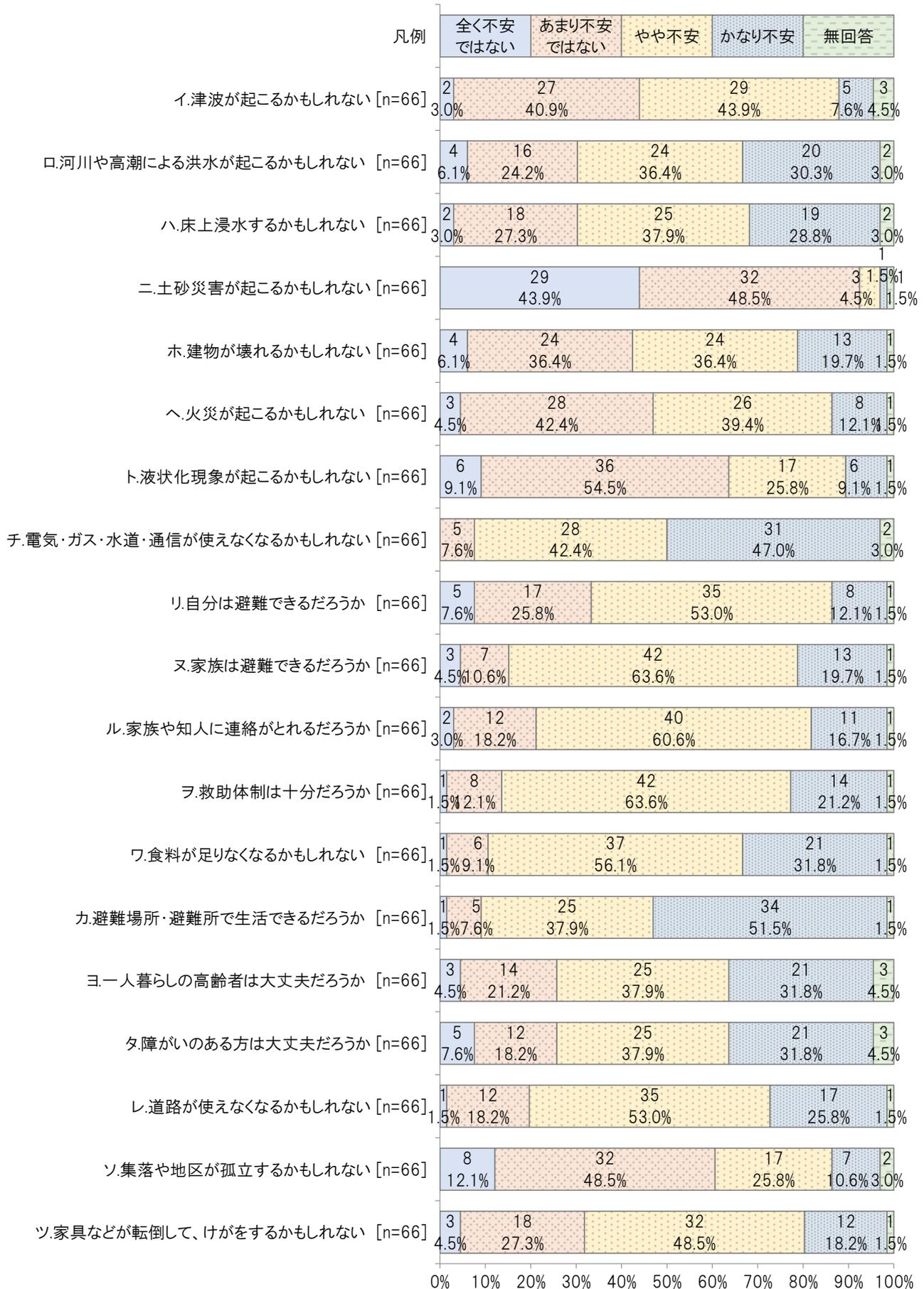
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

| 避難の経路・方法 | 避難場所の不足 | 被災時の支援 | 自助・共助 |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 避難所までのルートと移動手段。車？駐車場は？ ◆ 住宅が密集しており、道幅も広くないため、地震、火災時の避難に不安あり。 ◆ 高齢者の割合が高く、発災時の対応がスムーズにできるから心配です。 ◆ 高齢化地域（人口）の増大による、リスク（自主避難防衛）。 ◆ 火災（災害）発生時の狭道路、密集住宅のリスク。 ◆ 大雨による浸水被害が心配で避難場所も少なく、逃げるにも道路が冠水しており危険である。 ◆ 古くからの借家や、空家があり道路も住宅も入り込んでおり、地震や火災時の逃げ場所や方法を考えるおく必要がある（高齢化）。 ◆ 避難所が遠い為避難できなそう。 ◆ 道がせまい所などが多いので実際通れるのか。 ◆ 主要道路が水没して避難できない。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 洪水時の避難場所が無い。 ◆ とにかく避難所、避難場所がない。 ◆ 災害発生時、開設されない避難所がある。地域住民にどう周知するか。 ◆ 地震時の火災が発生した時に家が密集している道がせまい所がある。空地や広いスペースが少ないように感じるので不安である。広園等を増やしてあげたら。 ◆ 大雨による浸水被害が心配で避難場所も少なく、逃げるにも道路が冠水しており危険である。 ◆ 避難場所がない。避難ができない。 ◆ 津波大水の時に近場に高い建物避難場所がなく不安。 ◆ 地域の多くが火災や倒れた時の避難場所が不安。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高齢者の方の避難支援体制。 ◆ 高柳2丁目（高齢化率45.5%）をはじめ、地域内は、高齢者割合が高い町別もある。また世帯人員が2.0を割っている町別も増加しており、災害発生時の避難行動要支援の具体化が望まれる。 ◆ 避難のタイミミング、仕方、そこを仕切る人など不透明なことが多い。町内会長として指示できない。 ◆ 実際に災害が起きたら自分自身どう行動するか？誰の指示をあおげばいいのか？ | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高齢化している地域があり、災害時の対応が心配。もっと若い世代との交流をはかりお互いが助けあえるように対策が必要では。 ◆ 若い世代との交流、協力体制。 ◆ いざこの場合、皆様に手助けをお願いするか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域全体が地盤、地質面からみて、大揺れに揺れる地域である。一方で旧耐震基準住宅等や地震対策家屋の実態が不明。 ◆ 老人達に伝達・移動が難しく、どのようにして話を進めるかが？ | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小櫃川に近接しており、川幅狭小化、かつ浅底化の方向にあって、下水道整備されていない地域で、内水氾濫が、豪雨時頻繁に発生している。 ◆ 地域で豪雨等で内水氾濫、浸水箇所、地域内広域に亘っている。浄化槽内の汚物流出も地域によって相当数あり、保健衛生上、大きな問題である。これまでは、声を大きく言ってこなかったが、大きな行政上の保健衛生問題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 2021年12月1日現在8,812人の住民避難所（災害発生時）が体育館のみで、地域の人にとって地震、洪水災害時のマイタイムラインで自らの避難場所の確保の重要性を周知徹底を本格的にやる必要。 ◆ 避難所開設時、地域も含めた共助の体制作りが不可欠となるが、これらの訓練がなされていない（1回/年実施する総合防災訓練では形だけの訓練で終わってしまう）。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地震による火災。 ◆ 住宅が密集しているため延焼が心配。 ◆ 災害時の対策・対応が見えない（放置された空家）。 ◆ 台風による暴風雨の被害。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報の取得・伝達 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 浸水の対策 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 避難の知識・訓練不足 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 災害に伴う被害 |

岩根地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



岩根地区

[参考：建物密度分布図]

